



7～11_ 獅子が各地域で舞う (7 宗意原、8 永田、9 上高柳、10 横田、11 大溝) 12_4年ぶりの胴上げ (恵久美) 13_ 狩人のお面が怖くて涙 (中川原) 14_3頭もの獅子が舞う (神崎) 15_「来年も楽しみだね」 (徳丸)



秋祭り

松前町の秋祭りは、10月13日から15日まで行われ、力強い鉢合わせや地域色豊かな神事が各地で繰り広げられました。

新型コロナウイルスの影響で、みこしや獅子舞の運行を中止していた地区が多く、当日は4年ぶりの運行を待ちわびた多くの人が祭りに参加。

町内には、朝から夜遅くまで「ヨイサッ、ヨイサッ」「チョーサ、チョーサ」の音が響き渡り、祭りを楽しむ人たちの笑顔があふれていました。



伝統を守る 立役者たち

伝統とは、世代を超えて受け継がれていくもの。秋祭りのみこしや獅子舞も受け継がれるべき伝統の一つです。猛威を振るった新型コロナウイルスの影響で、消えかかった伝統がありました。それを懸命に阻止しようとした人たち。伝統を守る立役者たちに祭りにかける思いをインタビューしました。



宗意原地区 獅子舞に魅了されて

「宗意原獅子舞保存会」の会長を務める西村俊臣さんと、息子の諒平さん。「とにかく獅子舞が好き。踊るのが好き」と目を輝かせる諒平さんは、一度は途絶えた宗意原の獅子舞が、平成11年に約40年ぶりの復活を果たした翌年からずっと獅子舞に携わっています。当時、諒平さんは4歳。子役から始まり、現在は太鼓から獅子舞まで全てをこなし、指導する立場になりました。



(左から) 西村俊臣さん、律くん、諒平さん

新型コロナウイルス感染症が流行している間も、休むことなく獅子舞を舞い続けた「宗意原獅子舞保存会」。諒平さんは、「一回止めたなら終わってしまう。かっこいい獅子舞を残したかった」と当時を振り返ります。一方、俊臣さんが、「子役が少ないので、身内や知り合いに声を掛けて何とかやっている」と話すように伝統を守るための苦労も。



中川原地区 人とのつながりを大切に

高橋皓彦さん、武智俊介さん、本田健治さん、加藤宏崇さん、三好雄一郎さん、加藤由城さんは、中川原の秋祭りを中心として運営する「中川原祭心会」のメンバー。「中川原が大好き」と口をそろえる6人は、小学校3年生頃から中川原の祭りに参加しています。



(左上から) 武智俊介さん、本田健治さん、三好雄一郎さん、加藤由城さん、高橋皓彦さん、加藤宏崇さん

高橋皓彦さん、武智俊介さん、本田健治さん、加藤宏崇さん、三好雄一郎さん、加藤由城さんは、中川原の秋祭りを中心として運営する「中川原祭心会」のメンバー。「中川原が大好き」と口をそろえる6人は、小学校3年生頃から中川原の祭りに参加しています。



恵久美地区 子どもたちのために

「子どもたちのために、みこしや獅子舞を途絶えさせたくない」と口をそろえる橋正登さんと、小林祐介さん。橋さんは、壮年部のメンバーとして高張り子どもみこしとして、小林さんは郷土民芸部のメンバーとして獅子舞に携わっています。



(左から) 小林祐介さん、橋正登さん

住民からの要望で復活を果たします。そんな、大人みこしを復活させた人たちの思いを聞くことも橋さんの原動力「ゼロから復活させた人たちの思いを受け継ぎたい」と強く願っています。一方、小林さんは東京都出身。結婚後、恵久美で暮らし、獅子舞に携わるようになりました。